

三春病院リハビリテーション科

《理念》

患者さん中心に退院後も安心して生活できるようリハビリテーションを提供し、また、地域住民の健康づくりにも積極的に関与します。

《方針》

- ①インフォームドコンセント・患者さんの人権を大切にしたりハビリテーションを実施します。
- ②安全で安心できる環境のもと、急性期、回復期、生活期における専門性の高いリハビリテーションを提供します。
- ③地域のニーズに基づいたリハビリテーションを推進します。
- ④知識と技術の向上に努め、心のこもった質の高いリハビリテーションを実施します。



三春病院リハビリテーション科では、地域の皆様のニーズに応え、安心して地域で生活できるように様々な取り組みを行っております。その取り組みの一部をご紹介します。

自動車運転再開支援

自動車を運転することは日常生活や社会参加のために重要な手段となります。特に公共交通機関が充実していない地域においては、日常生活には欠かせない存在です。また、移動手段の他にも趣味など生きがいに繋がるものでもあります。



＜＜脳卒中の症状と運転＞＞

脳卒中発症後は、片麻痺や認知機能の低下・高次脳機能障害（判断力・注意力）など様々な症状を認める場合があります。安全に運転をするためには、目で見ただけの情報から適切に状況を判断し、瞬時にハンドルやペダル等を操作する必要があります。適切な状況判断や操作が難しい場合、重大な事故が発生する危険性があります。当院では脳卒中による症状や動作の確認を実施し、運転に必要な能力を強化するとともに、安全で実用的な方法を提案しています。

◎三春病院 自動車運転再開支援チームより

脳卒中による麻痺や高次脳機能障害により運転が難しい場合もありますが、症状を理解し注意して運転をすることで運転が可能な場合もあります。みなさんが日常生活で安全に運転を再開することができるよう全力でサポートしていきます。

《支援の流れ》

当院では脳卒中発症後の入院患者さんを中心に多職種で連携をしながら、自動車運転再開支援を行っています。

① 院内評価・練習

脳卒中によりどのような症状があるのか、また動作の確認・練習を行います。

- ・麻痺や感覚障害など体の状態についての確認
- ・筆記課題やドライビングシュミレーター等での評価・練習
- ・ハンドル・ペダル等の操作、車の乗り降り動作の確認



院内評価で概ね問題なし
または
一部問題がある程度の場合



② 安全運転相談（警察署）

現状の病状をふまえてご本人に警察署へ運転の相談に行っていただきます。

③ 実車評価（実車練習）

警察署の公安委員会に提出する診断書が必要な場合には、教習所での実車評価・練習を行います。教習所場内・路上を運転しながら確認をしていきます。

④ 診断書作成

実車評価・練習での結果をふまえて医師が診断書を作成します。

《ドライビングシュミレーター》

令和3年12月にドライビングシュミレーターを導入しました。認知反応検査、タイミング検査、走行検査、注意配分検査の4項目の結果より運転適性の可能性を分析します。



運転に必要な認知機能を運転に似た状況で評価できます。それぞれの苦手な部分を分析します！

《自動車の改造について》

脳卒中により片麻痺がある方でも車の運転が可能になるよう必要な場合には、自動車の改造をご提案しています。対応業者をご紹介します連携を取りながら支援をしています。



自家用車を改造し、運転が再開でき、復職した方もいます！

きこえに対する支援

《内容》

入院生活や退院後の生活で人との交流を行うためにも、リハビリテーションを進めていくうえでも「聴こえる」ということは重要です。回復期リハビリテーション病棟入院中の方を対象に、耳鼻咽喉科医師、主治医と連携し、きこえの問診を行い、耳鼻科受診へ繋ぐきこえに対する支援を行っております。必要性がある方は入院中に補聴器の試聴や装用練習を行うことができます。

園芸リハビリテーション



《はじめに》

三春病院リハビリテーション科ではリハビリテーションの一環として、畑を用いた園芸リハビリテーションを行っています。元々園芸リハビリテーションは欧米から発祥したものであり、農作業を通して心身に障害を持つ人たちの機能回復を図る手法です。

《発足の経緯》

地域医療に力を入れている三春病院では、地元周辺の方たちが多く利用されています。土地柄、元々農家をされていた方や現役で農家仕事をされている方が多くいらっしゃることもあり、慣れ親しんだ農作業という点から、日常に親しみやすいリハビリテーションを提供ができないか?と思い、発足しました。

《実施期間》

現在では夏野菜と冬野菜の作成をしています。2022 年はキュウリ、トマト、スイカ、トウモロコシ、枝豆、白菜、ホウレンソウ、大根を育てました。



《実施内容》

耕運-種まき-追肥-収穫 どの農作業でも皆さんイキイキとされており、普段のリハビリテーションよりも活発に動かれている方が多くいらっしゃいました。車椅子の方は遠目に作業を見てもらいながらアドバイスを頂くなど、患者さんの豊富な知識と経験で野菜たちはすくすく育っていきました。



運搬等の患者さんにとってリスクのある作業は職員が行いました。患者さんの知識量がとても豊富で、やり方はネットで調べるより詳しく教えていただきました。一通り終わった後は、成長の具合を患者さんと歩行練習をしながら一緒に見に行き、追肥のタイミングや害獣対策などを一緒に話し合うなど、屋外リハビリテーションに行くきっかけ作りにもなりました。

《病院食への提供》

採れたての野菜は栄養科に依頼して調理してもらい、患者さんに食べていただきました。いつ食べられるか楽しみにされている方もいたため、食べた後は「美味しかった」とご感想をいただきました。



白菜を使った八宝菜！



素材を味わっていただく為に茹でて提供しました！

地域の健康増進支援



三春町および田村地域の皆様の健康増進、介護予防推進のため、地域サロンや認知症カフェで専門職による講話や実技指導支援を行っております。令和4年度は、フレイルや認知症、口腔機能、誤嚥性肺炎予防、きこえやコミュニケーションについて、のべ60回以上派遣いたしました。

また、ヘルスサポートレターを年 4 回発刊し、“ちょっとした健康情報”をお伝えしております。院内とホームページに掲示し、お持ち帰りいただけます。

嚥下評価入院

地域包括ケア病床において、飲み込みの力が衰えてきており、お食事に不安がある方を対象に、嚥下評価を目的とした入院を受け入れております。

医師、看護師、管理栄養士、リハビリテーション科で連携し、嚥下内視鏡検査で詳しい嚥下評価を行い、より安全に食べられる方法を検討します。退院時には嚥下機能に合わせたお食事内容、お食事の仕方について、言語聴覚士や管理栄養士からお伝えします。

現在、胃ろうや経管栄養を使用していて経口摂取を行っていない方でも、病状が落ち着いており、かかりつけの主治医から紹介があれば、経口摂取が可能かどうかの評価を行うこともできます。

医療機器の導入

《下肢装具》

下肢装具は運動麻痺で低下した下肢機能を補助することで、立位や歩行を円滑にする道具です。当院では患者様の体型に合うよう様々な種類の下肢装具を所有しています。



《歩行分析器 (WM GAIT CHECKER)》

歩行分析器は装着するだけで、装着者の歩行を客観的に評価できる装置です。

従来は目視で行ってきた歩行分析ですが、この装置の導入により歩行に必要な下肢の筋肉の動きを計測・数値化し、より良い歩行分析や治療に役立っています。患者様の歩行能力を最大限高めるようなリハビリテーションの提供を目指しています。



質の高いリハビリテーションの提供

リハビリテーション科では質・専門性の高いリハビリテーションの提供のために、職員の教育・研修や自己啓発支援を積極的に行っております。

《当科職員取得資格一覧》

(2023 年 3 月末現在)

※PT:理学療法士 OT:作業療法士 ST:言語聴覚士

資格名	総数	PT	OT	ST
がんのリハビリテーション	7	2	2	3
3 学会合同呼吸療法認定士	2	2		
福島県糖尿病療養指導士	4	3		1
BLS プロバイダー	11	8		3
福祉住環境コーディネーター2 級	9	6	3	
ピンクリボンアドバイザー初級	3	3		
認知症キャラバンメイト	2	1		1
認知症サポーターステップアップ講座指導者	1			1
社会福祉士	1			1
歯科衛生士	1			1
公認心理師	1			1
福島県体育協会アスレチックトレーナー	1	1		
痛みマネージャー	1	1		
東洋医学アドバイザー	1	1		
地域ケア会議推進リーダー	1	1		
認知症ケア指導管理士	1	1		
健康運動実践指導士	1	1		
東北大学大学院障害科学(修士)	1			1
認定言語聴覚士(摂食嚥下障害領域)	1			1
摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	2			2
日本医師会医療安全推進者	1			1
NST 専門療法士	1			1
メディカルクラーク(医科)	1			1